

平成29年度 高松市病院事業決算の概要について

市民病院事務局経営企画課



1 平成29年度収益的収支、現金・預金の状況

(単位:百万円)

区 分		市民病院	塩江分院	香川診療所	全体
収 益	医業収益	4,532	515	201	5,248
	うち一般会計負担金	213	0	0	213
	医業外収益	922	246	112	1,280
	うち一般会計負担金	802	238	107	1,147
	附帯事業収益	—	16	—	16
経常収益 A	5,454	777	313	6,544	
費 用	医業費用	5,873	807	296	6,976
	医業外費用	192	18	7	217
	附帯事業費用	—	23	0	23
経常費用 B	6,065	848	303	7,216	
経常損益 C=A-B	△611	△71	10	△672	
特別利益 D	177	1	1	177	
特別損失 E	84	3	1	87	
特別損益 F=D-E	93	△3	△1	90	
純損益 C+F	△518	△74	10	△582	

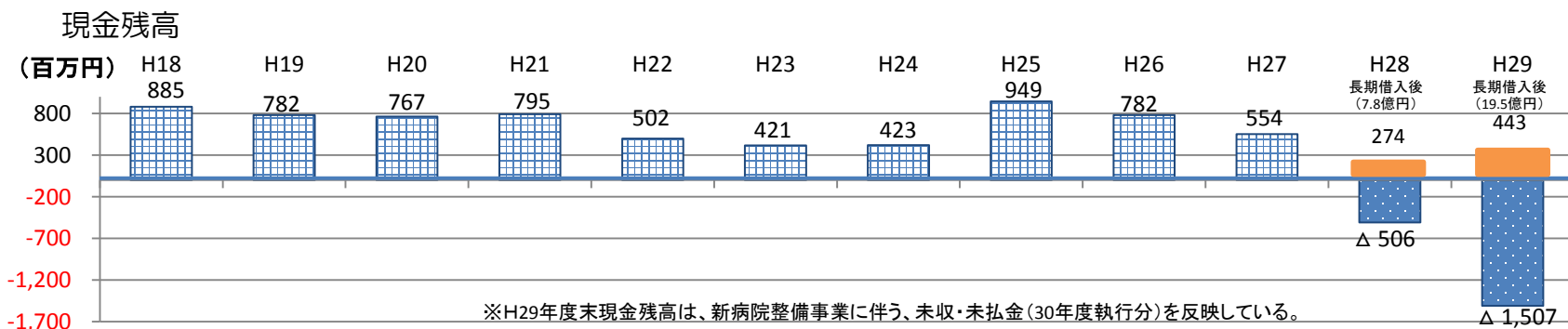
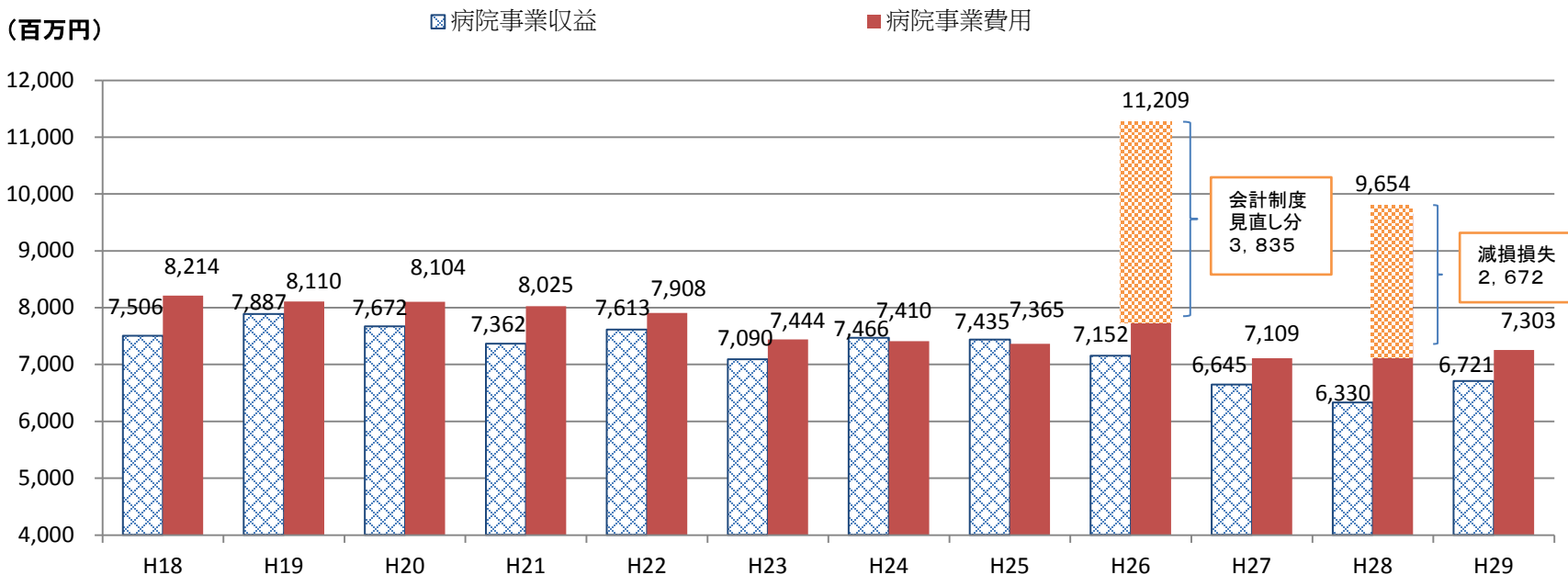
※税抜 ※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。

現金・預金(年度末)	1,433	115	79	1,626
長期借入・病院間融通を除いた実質残高※	△2,041	275	259	△1,507

※新病院整備事業に伴う未収・未払金(30年度執行分)を反映している。



2 病院事業収益・費用の推移（3病院全体）

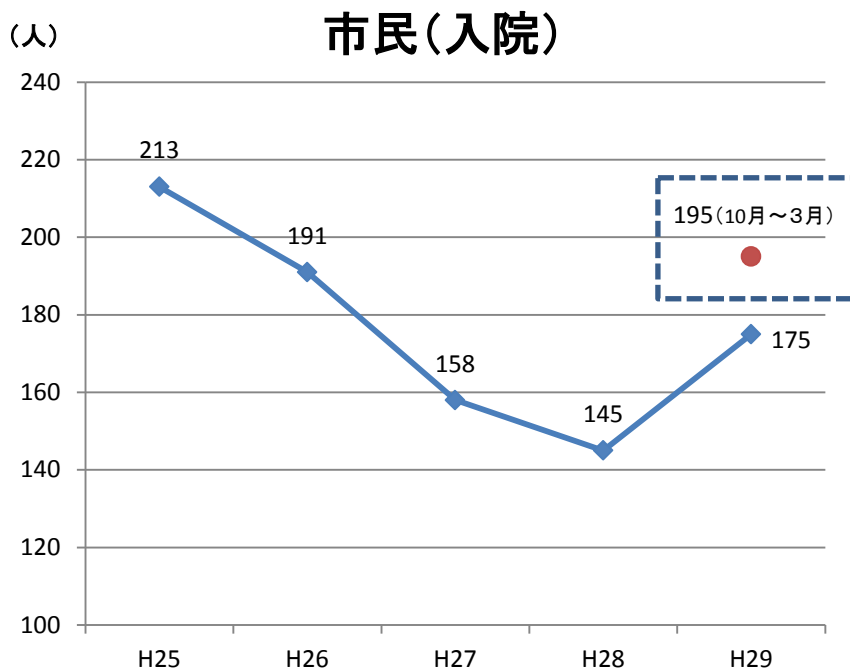


【分析と課題】

ここ数年、患者数の減少に伴い、慢性的な赤字が継続しており、良質な医療を安定的に確保していくためには、経営の健全化を進め、現金・預金を確保することが喫緊の課題となっている。



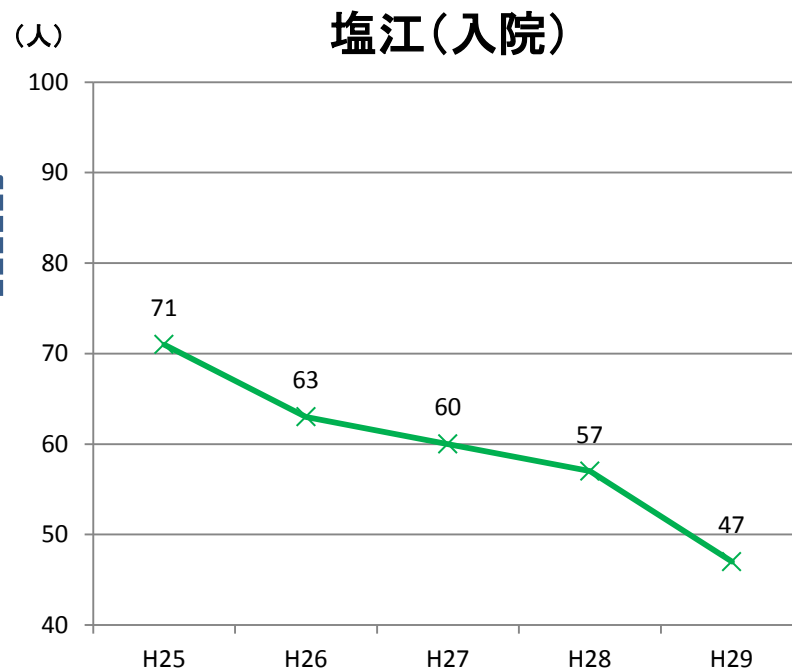
3-1 患者数（1日当たり）の推移 ア 入院（市民・塩江）



【分析と課題】

常勤医師の増加(H28末:37人→H29末43人)に伴う診療体制の充実に加え、「救急受入体制」の強化や、「地域包括ケア病棟」を開設したことなどにより、10月以降患者数は増加傾向にある。

今後においても、更なる医師確保により、診療体制を強化し、新規患者等の獲得が重要である。



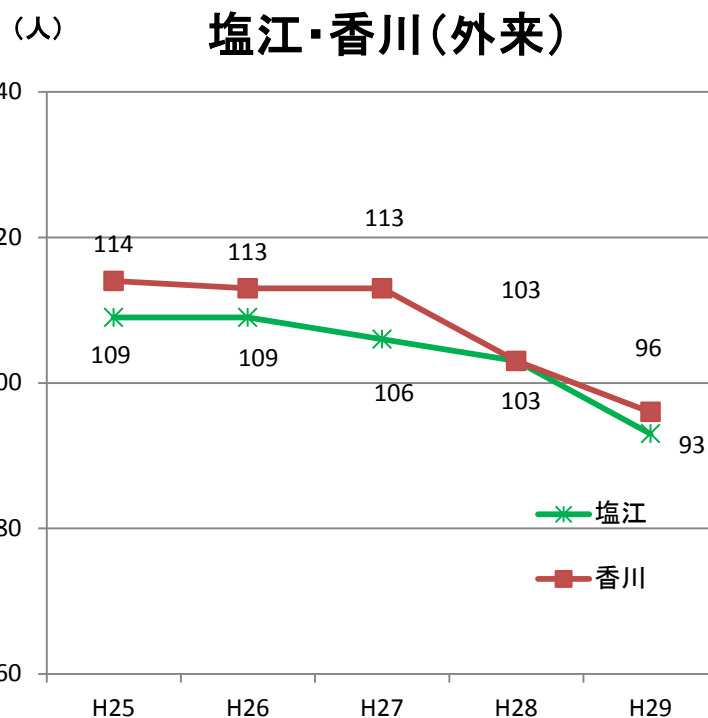
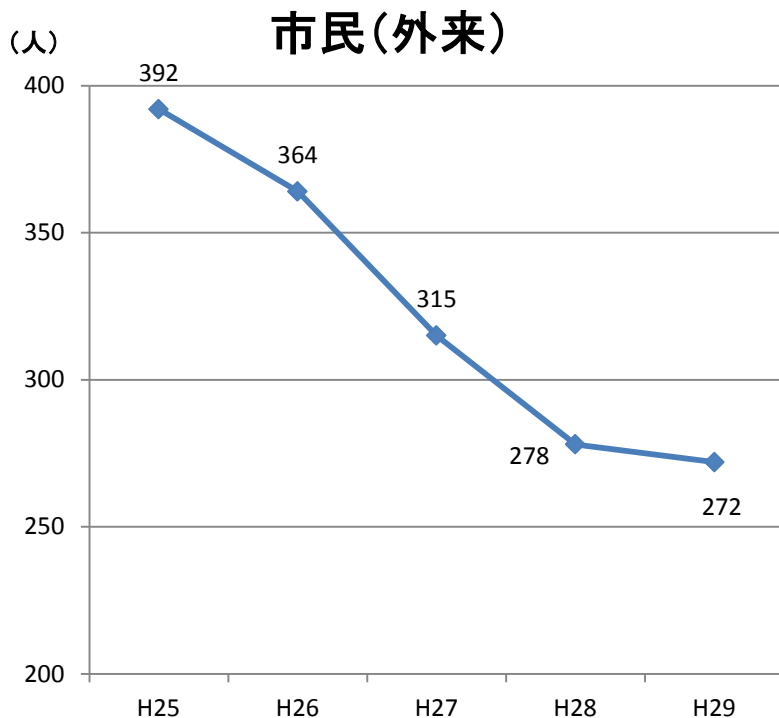
【分析と課題】

患者数は、減少傾向にあり、塩江地区住民の減少や入院患者の施設入所などが影響しているものと考えられる。

今後も、大幅な患者数の増加は見込めないが、引き続き、「地域まるごと医療」の実践に努めるとともに、一般病床を有する病院からの患者の受入れが容易となるよう取得した、「在宅復帰機能強化加算」及び「入院基本料Ⅰ」を効果的に活用する必要がある。



3-1 患者数（1日あたり）の推移 イ 外来（市民・塩江・香川）



【分析と課題】

患者数が減少した主な要因として、地域の「かかりつけ医」との機能分化を推進していることがあげられる。
(初診患者への別途負担引き上げ: H24.4~1,050円 → 2,100円)

引き続き、機能分化を推進しつつも、新規患者数を増加させることや、医師を含めた、すべての職員の労働生産性の向上を図ることが重要である。

【分析と課題】

塩江分院、香川診療所ともに患者数は、減少傾向にある。

今後も、大幅な患者数の増加は見込めないが、引き続き、塩江分院は、訪問看護にも注力するなど、「地域まるごと医療」の実践を、香川診療所は、新病院との統合を見据える中、健康教室の実施など「住民参加型の医療」の提供に努める必要がある。



4-1 市民病院の収益的収支 ア 前年度との比較

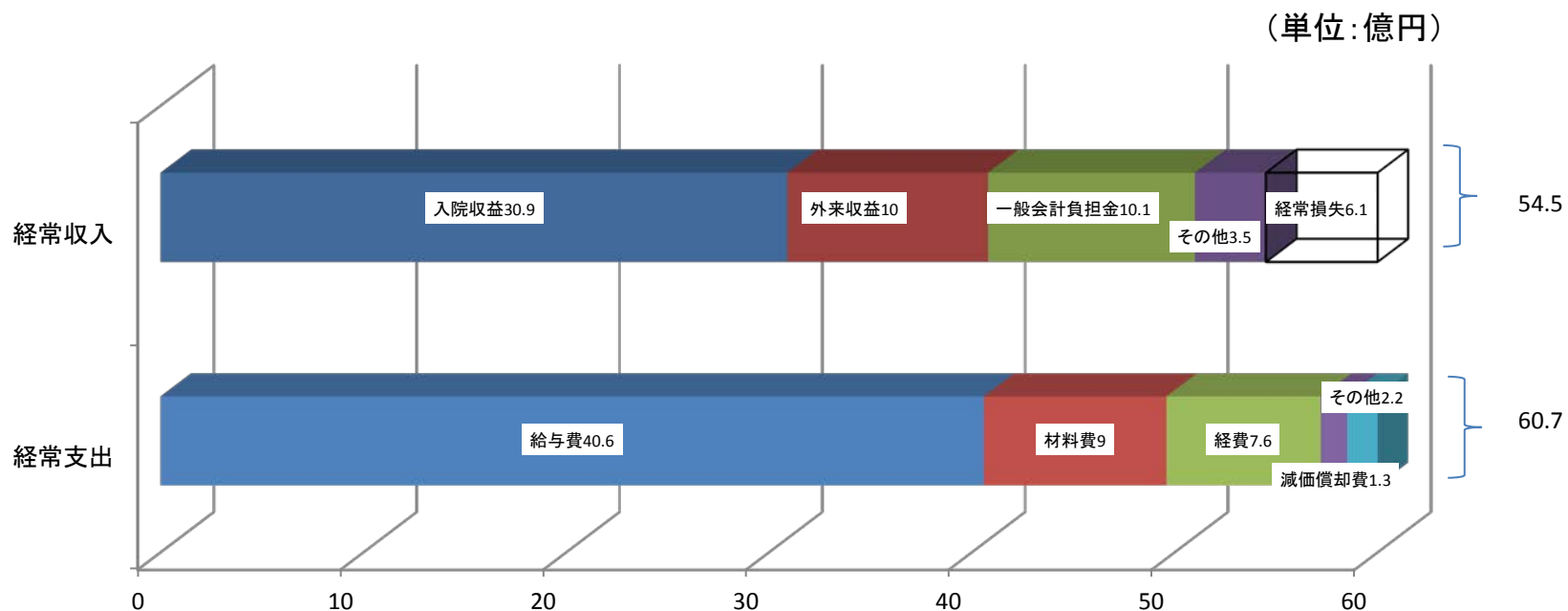
(単位:百万円)

区 分		H29	H28	差引増減
経常収益	医業収益	4,532	4,033	499
	うち入院収益	3,087	2,580	507
	うち外来収益	994	993	1
	うち一般会計負担金	213	206	7
	医業外収益	922	952	△30
	うち一般会計負担金	802	784	18
	合計	5,454	4,985	469
経常費用	医業費用	5,873	5,678	195
	うち給与費	4,057	3,708	349
	(職員数:人)	369	366	3
	うち材料費	902	820	82
	うち経費	755	748	7
	うち減価償却費	130	376	△246
	医業外費用	192	158	34
合計	6,065	5,836	229	
差引		△611	△851	240

※税抜



4-1 市民病院の収益的収支 イ 収益対費用



【分析と課題】

費用は、人件費や施設管理経費等の固定費の割合が大きく、これまでも、人員の削減や管理経費の削減などに努めていること、また、人材育成のため、研究研修費を一定程度維持している現状から、その抑制は難しい。

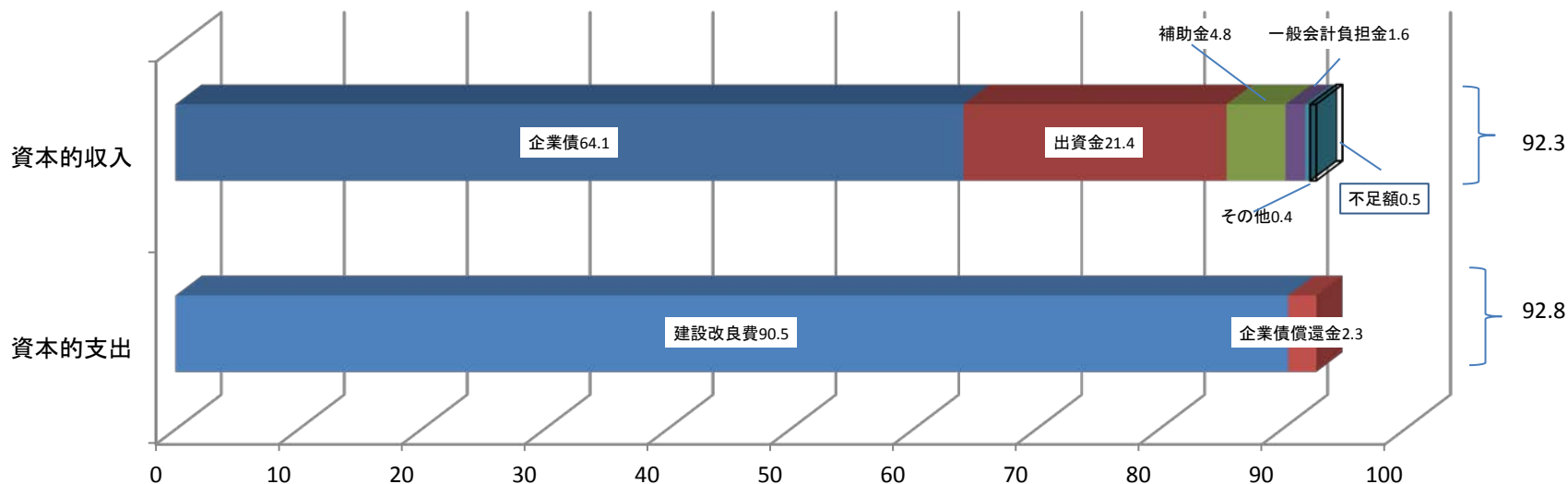
30年度を始期とする「第3次高松市病院事業経営健全化計画」に基づき、これまで以上に「良質な医療の提供」を行うとともに、患者数の更なる獲得に努め、経常収支の黒字化を図る必要がある。



5 市民病院の資本的収支

ア 収益対費用

(単位: 億円)



イ 建設改良費の内訳

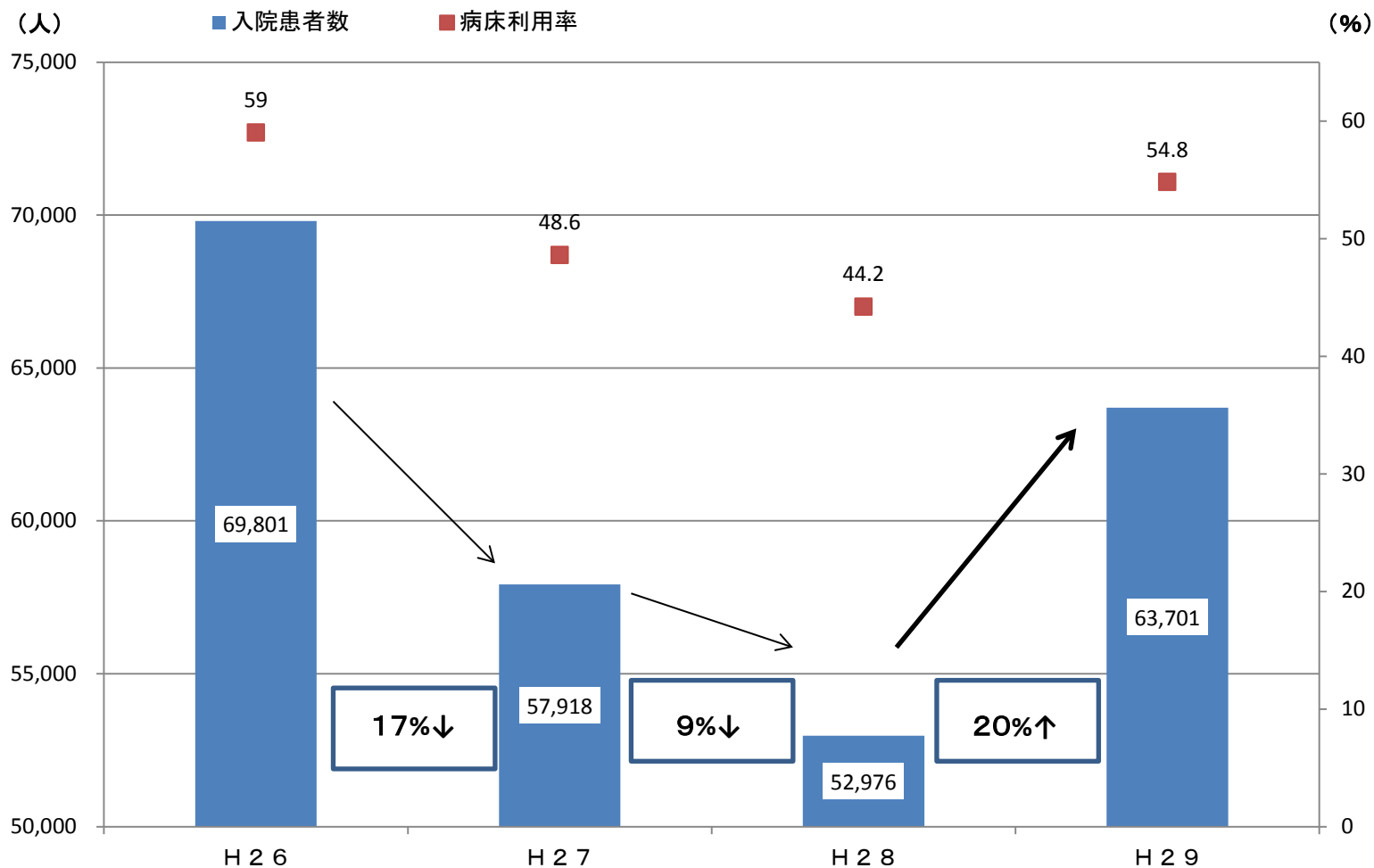
新病院整備	89億8,268万円
医療機器購入	6,518万円

【分析と課題】

建設改良費については、その財源として企業債や一般会計からの出資金・負担金により賄われており、29年度における病院事業からの持ち出しは5,268万円となっている。新病院整備事業に係る企業債償還が本格化する34年度(2022年度)以降は、資本的収支に係る不足額がさらに拡大するため、収益的収支において現金を留保する必要がある。



6 入院患者数と病床利用率

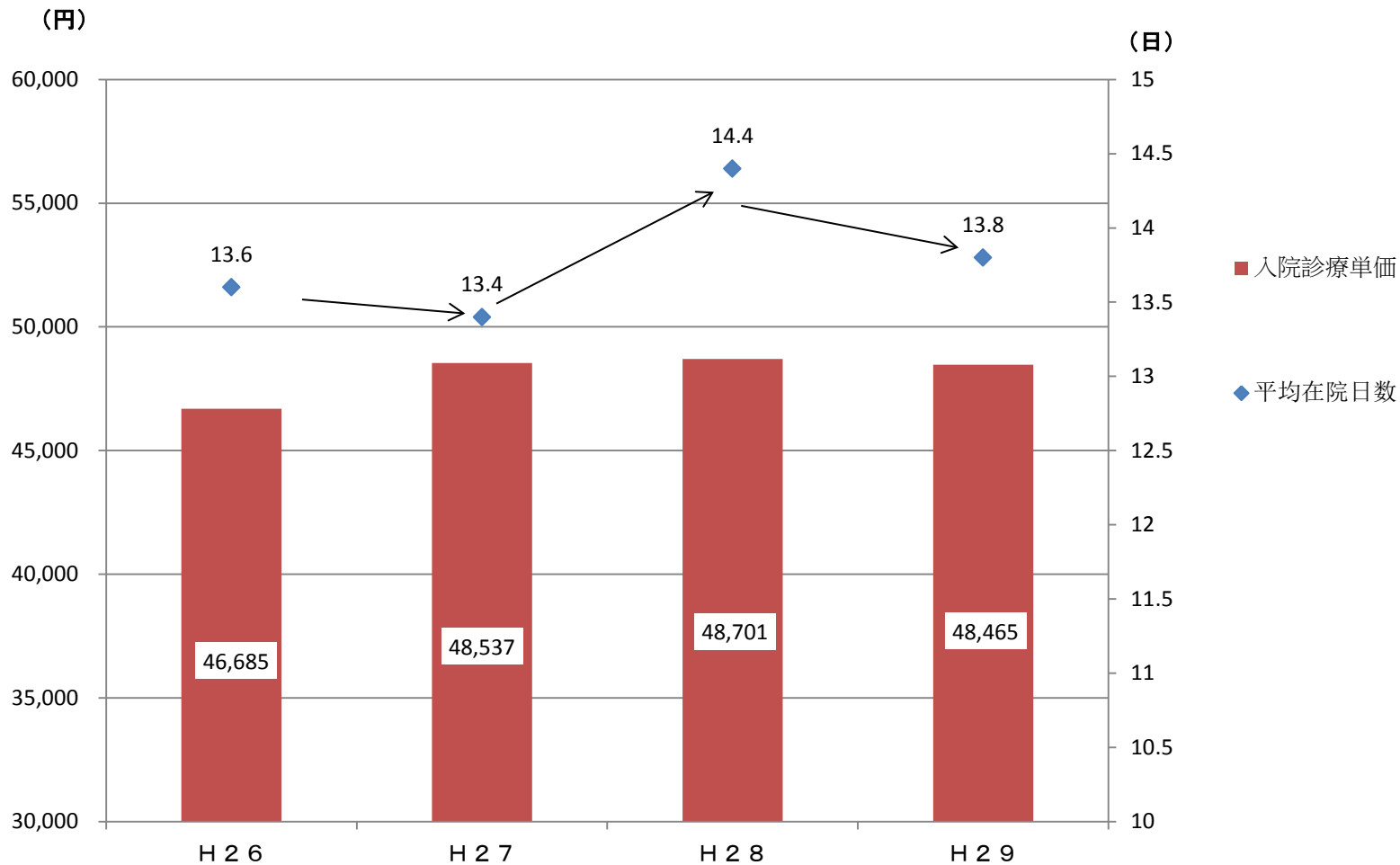


【H29分析】
H28に比べ、1日当たりの患者数は30人増加するとともに、診療単価は、前年度並みとなる48,465円となったことから、入院収益は約5億700万円増加した。



市民病院

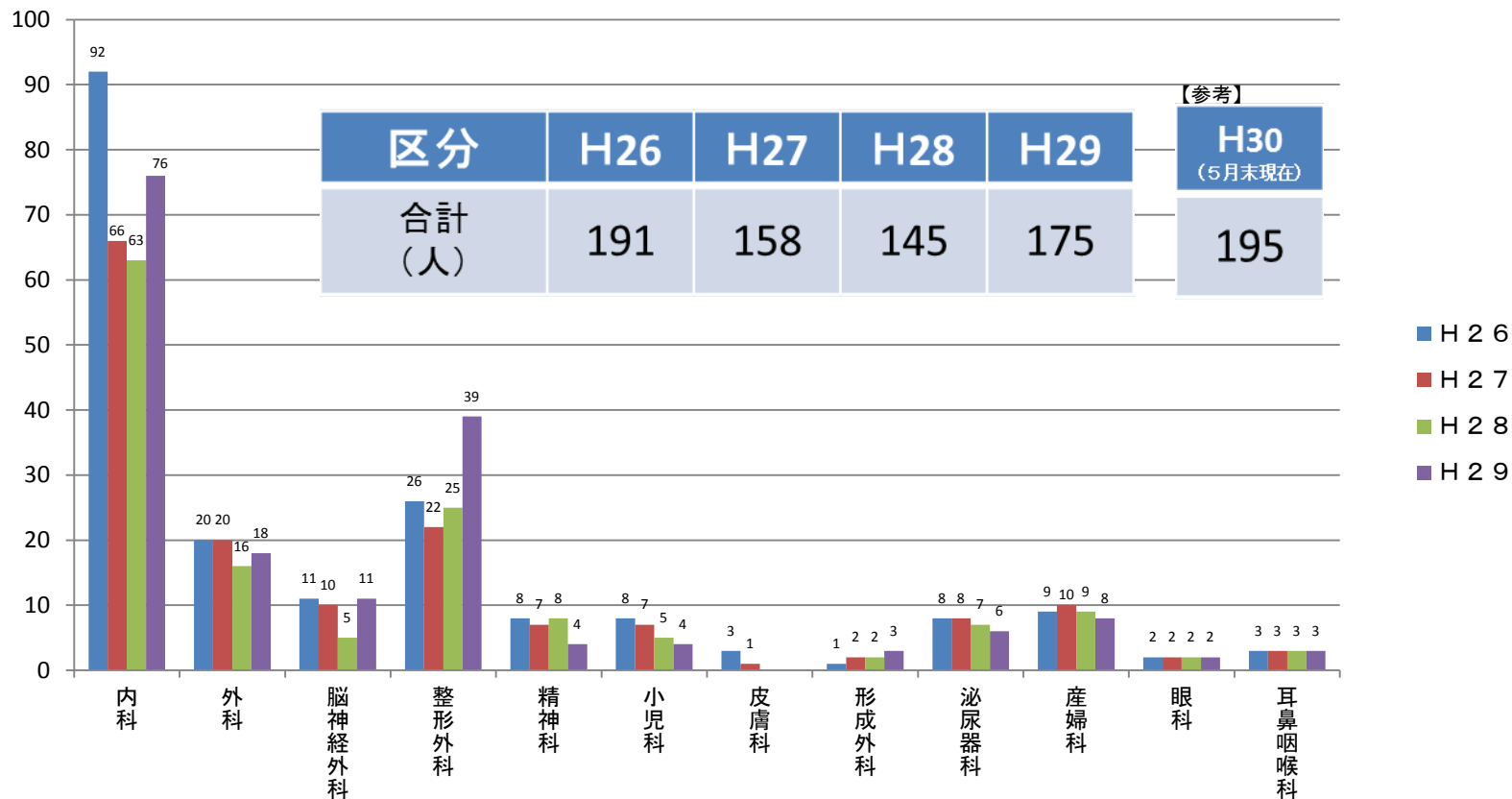
7 入院診療単価と平均在院日数





8 診療科別1日当たり入院患者数の推移

(人)



【分析と課題】

H29は、「内科」及び「脳神経外科」の入院患者数が増加に転じるとともに、「整形外科」は、2カ年連続して著しく増加した。総入院患者数の回復には、内科患者の獲得が必須である。

※放射線科、麻酔科等は計上していない。

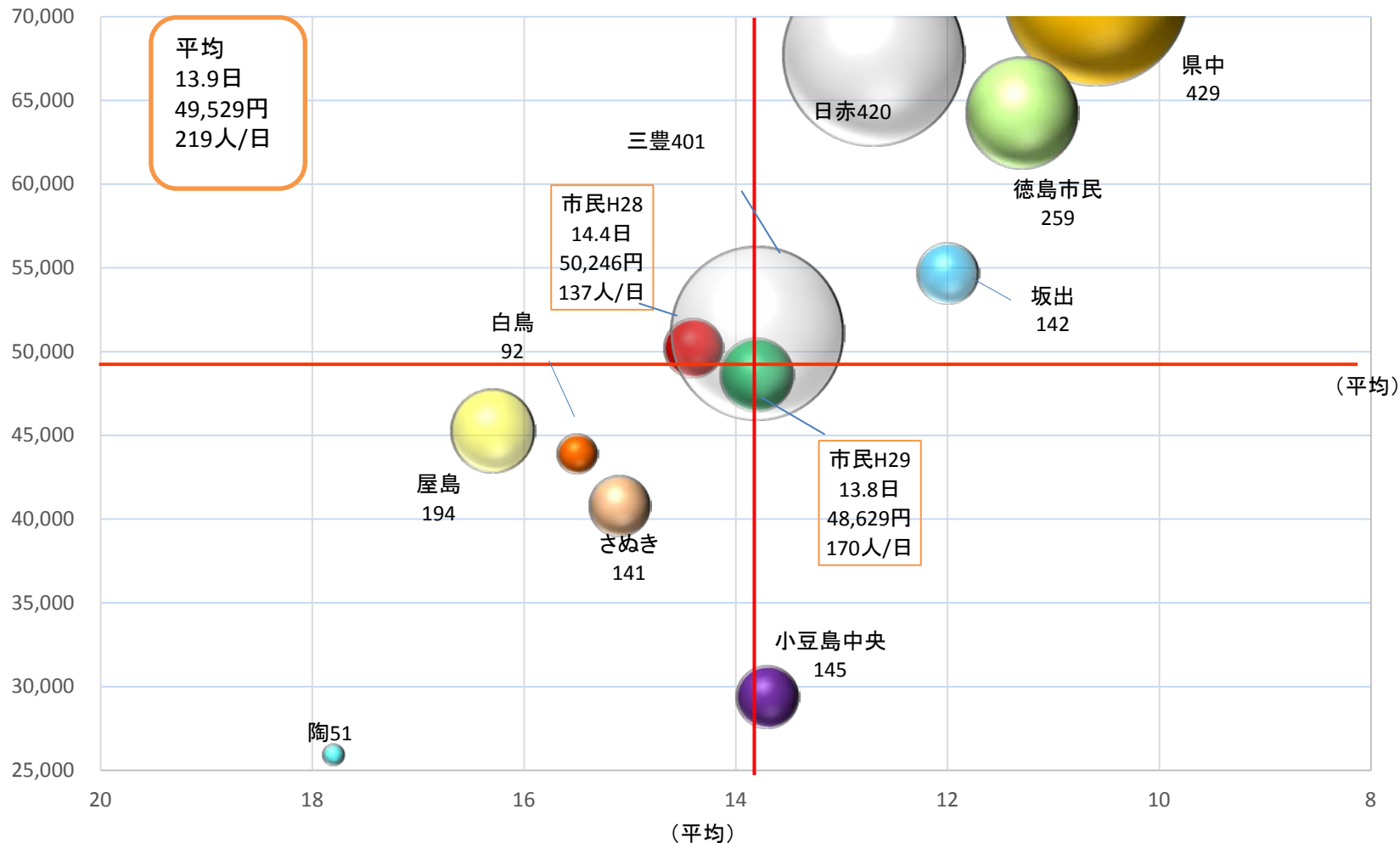
※内科は、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科及び神経内科を含む。

※外科は、呼吸器外科を含む。



9 入院診療単価と平均在院日数 (H28年度)

入院診療単価(円)



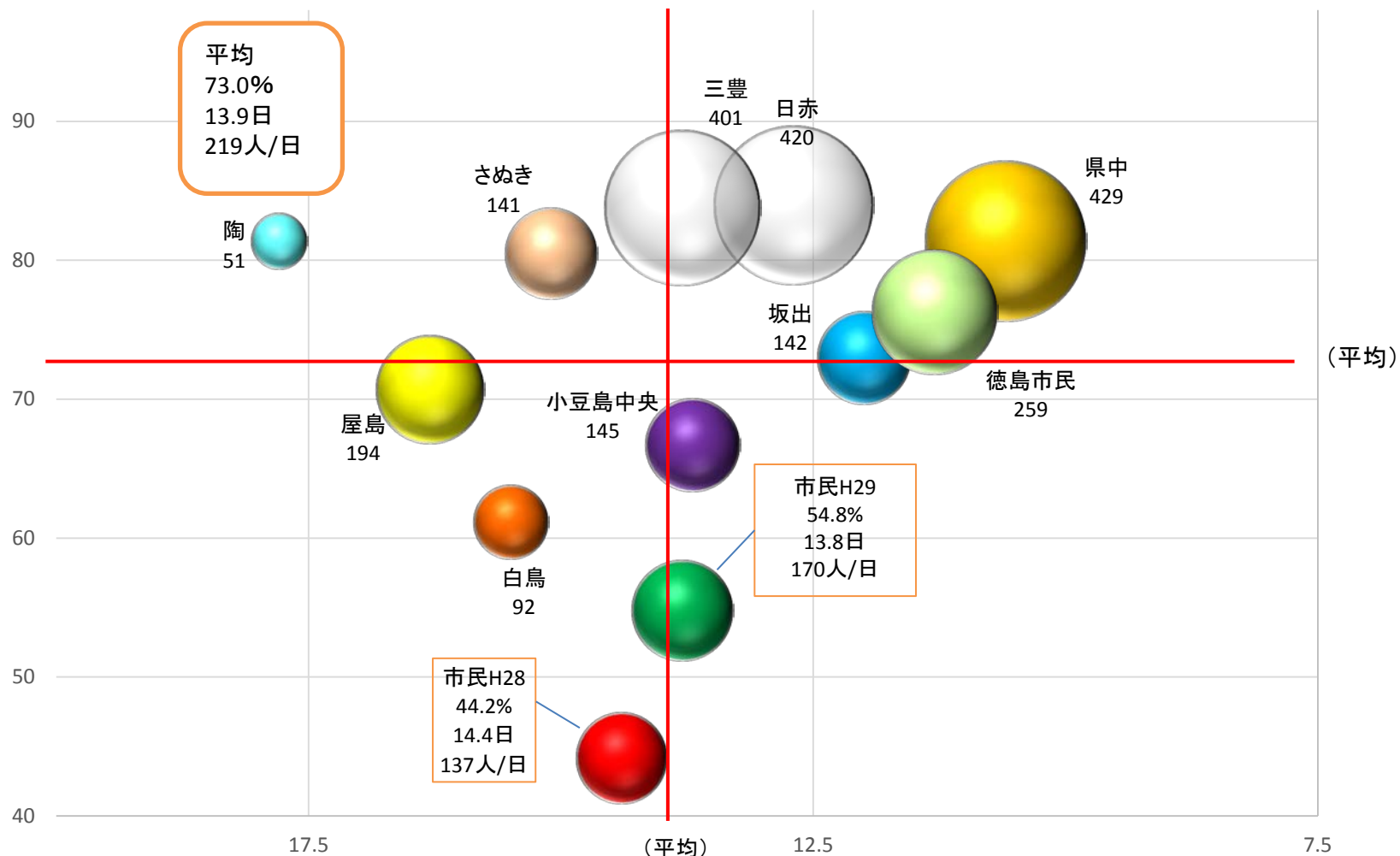
※ 円の大きさは、患者数に比例している。
 ※ 一般病床のみの数値(精神科を除く)

平均在院日数(日)



10 病床利用率・平均在院日数（H28年度）

病床利用率(%)



※ 円の大きさは、患者数に比例している。
※ 一般病床のみの数値(精神科を除く)

平均在院日数(日)

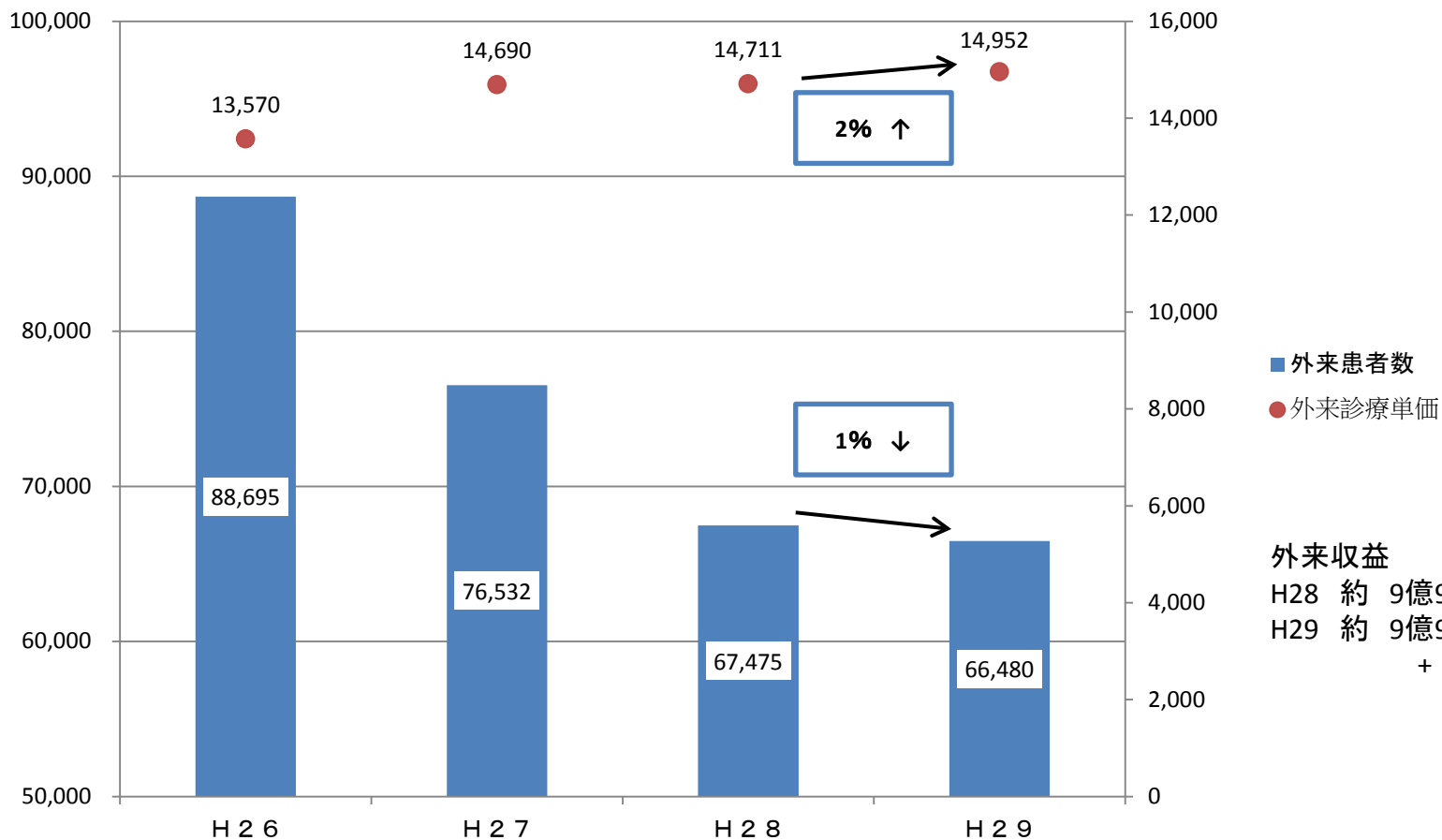


市民病院

1.1 外来患者数と外来診療単価

(人)

(円)



【H29分析】

患者数は、わずかに減少したが、機能分化の推進により診療単価が上向いたことから、外来収益は100万円増加した。